



全体として

- ❖ 2030年まであと11年弱。「どういう社会を目指すのか」という将来ビジョンを明確に示す。そのためにマルチステークホルダーで議論を積み上げる必要がある
- ❖ その上で、できるだけアウトサイドイン・アプローチを採用し、現在できていることと目指す社会とのギャップを特定し、変革、イノベーション(技術だけでなく社会イノベーションも)、パートナーシップで解決する道筋を示す
- ❖ 目標間、ターゲット間で生じるトレードオフ(相殺)を認識して対策を立てる
- ❖ 「誰一人取り残さない」という2030アジェンダの理念や価値を再認識するとともに、改訂版にしっかりと書き込む

SDGs達成に向けた本気度が試される！

改定にあたって

- ❖ マルチステークホルダーの会議体であるSDGs推進円卓会議を活用し、改定作業に多様な主体の参加を保障する
- ❖ 持続可能な社会を推進するための法律の制定を検討すべき